



## 朝会でこんな話をしました。～ 当たり前に感謝 ～

本日の朝会で子どもたちに紹介した「靴屋と物乞い」というお話です。当たり前なのに感謝できる、そんな子どもたちになってほしいと願っています。

働き者の靴屋のもとへ、あるとき物乞いに姿を変えた天使がやってきました。  
靴屋は物乞いの姿を見ると、うんざりしたように言いました。「私は朝から晩まで働いているのに、家族を養う金にも困っている身分だ。おまえにあげられるものなんて何もないよ。さっさと帰ってくれ。」そして嘆くように、こうつぶやきました。「みんなそうだ、こんな私に『何かをくれ』と言う。そして今まで私に何かをくれた人など一人もいやしない・・・」

物乞いはその言葉を聞くと、こう言いました。「じゃあ私があなたに何かあげましょう。お金に困っているのならお金をあげましょうか？ いくらほしいですか？ 遠慮なく言ってください。」

靴屋は面白いジョークだと思い、笑って答えました。「ああ、そうだね、じゃあ100万円くれるかい？」  
「わかりました。100万円差し上げましょう。ただし条件が一つあります。」

「条件？」

「100万円の代わりに、あなたの足を私にください。」

「何？ 冗談じゃあない。この足がなければ、立つことも歩くこともきやしない。やなこった。100万くらいでこの足をやれるもんか。」

「では、1000万あげます。その代わりにあなたの腕を私にください。」

「1000万！ この腕がなければ仕事もできなくなるし、かわいい子供たちの頭もなでてあげられなくなる。つまらんこと言うな！」

「そうですか。では1億あげましょう。その代わりにあなたの目を私にください。」

「1億！ この目がなければこの世界の素晴らしい景色も、女房や子どもの顔も見れなくなる。だめだ、だめだ！ 1億でもこの目はやれん！」

すると物乞いはこう言いました。

「そうですか。あなたはさっき、『何も持っていない』と言ってましたけれど、本当はお金に代えられないくらい価値のあるものをたくさん持っているんですね。しかもそれは、全部もらったものでしょう？」

靴屋は何も答えることができず、しばらく目を閉じたまま考え込みました。そして深くうなずくと、心に温かな風が吹いたように感じました。

靴屋が目を開けたとき、物乞いの姿はもうどこにもありませんでした・・・



## ＜ 東西しらかわ中体連新人大会及び県南中体連駅伝大会について ＞

上記2大会については、現在、実施することを前提に検討を進めています。実施予定日は、以下の通りとなります。



- 県南中体連駅伝大会 9月2日(水)
- 東西しらかわ新人大会 9月24日(木)、25日(金) ※予備日26日(土)

実施に当たっては、各競技団体から示されているガイドラインに準じて運営に当たります。また、競技時間を短縮したり、無観客で実施するなど、感染リスク軽減に努めます。今後地域の感染状況の変化を注視しながら準備を進めてまいります。状況によっては中止となることもあることをご理解ください。

## ＜今週の予定＞

日	曜	主な行事
27	月	全校朝会 PTA 奉仕作業打合せ(19:00~) 修学旅行保護者説明会(19:00~)
28	火	B案 内科検診(1年) 1年生学年集会
29	水	B案 2年生学年集会 部活動休止日
30	木	3年生学年集会
31	金	B案 1学期終業式 部活動なし

## ◇◇ 今週の言葉 ◇◇

勝ち負けに「偶然」はありません。  
必ず「原因」があります。  
その「原因」を自分自身の中に見つけ  
さらに伸ばしたり、克服できたりした人が  
次の闘いで勝利をつかめるのです。

